

2017年11月1日

## 公益財団法人 三井住友海上福祉財団 2017年度「研究助成」および「三井住友海上福祉財団賞」を決定

MS&ADインシュアランスグループの公益財団法人 三井住友海上福祉財団（理事長：植村 裕之）は、2017年度の研究助成として応募総数160件のうち31件を決定し、11月14日（火）に贈呈式を開催します。また、優れた著作・論文に対し贈呈する「三井住友海上福祉財団賞・財団奨励賞」として著作3点を同日表彰します。

当財団では、「交通安全等部門」「高齢者福祉部門」の2部門で研究助成を実施しており、今年度は総額3,430万円を助成します。あわせて、海外（シンガポール、タイ）の研究助成として応募総数33件のうち9件の助成を決定しました。

これにより、今年度の研究助成は、応募総数193件中40件、総額3,995万円となり、当財団設立以来の助成累計は、2,022件、23億40百万円となります。

### 1. 2017年度贈呈式および授賞式の概要

開催日時：2017年11月14日（火） 15:30～18:00

開催場所：住友会館（港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー42階）

出席者：研究助成対象者、財団奨励賞受賞者、内閣府、選考委員、他財団

当財団役員・評議員、MS&ADインシュアランスグループ役職員等 合計 約70名

記念講演：「高齢ドライバーの心理学的事故発生モデル」

実践女子大学人間社会学部 教授 松浦 常夫

「在宅高齢者の誤嚥性肺炎の発症を予防する嚥下蠕動機能監視装置の発明」

東北大学加齢医学研究所 助教 井上 雄介

### 2. 主な研究助成・受賞テーマ

#### (1) 研究助成

＜交通安全等部門＞ 全10件

「中高齢ドライバーの免許返納を規定する意思決定モデルの検討」

東海学園大学 人文学部心理学科 准教授 谷 伊織 他9件

＜高齢者福祉部門＞ 全21件

「認知症高齢者の終末期の病態解明とアプローチ法の確立」

杏林大学医学部 高齢医学 教授 神崎 恒一 他20件

#### (2) 三井住友海上福祉財団賞

＜交通安全等部門＞ 著作2点

##### ①財団賞（副賞50万円）

「高齢ドライバーの安全心理学」

実践女子大学人間社会学部 教授 松浦 常夫

##### ②財団奨励賞（副賞30万円）

「認知症高齢者の自動車運転を考える家族介護者のための支援マニュアル：認知症高齢者の

安全と安心のために（第二版）」

国立長寿医療研究センター 長寿政策科学研究部 部長 荒井 由美子

＜高齢者福祉部門＞ 著作1点

##### ①財団賞 該当なし

##### ②財団奨励賞（副賞30万円）

「ホスピスで死にゆくということ—日韓比較からみる医療化現象」

椙山女学園大学 人間関係学部 教授 株本 千鶴

以上

## 三井住友海上福祉財団の概要

事務所	〒101-8011 東京都千代田区神田駿河台3-9
設立	1975年 9月1日：住友海上福祉財団として発足 2001年10月1日：三井住友海上福祉財団と改称
主務官庁	内閣府
理事長	植村 裕之
基本財産	14億7,293万円（2017年3月31日現在）
沿革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1975年9月に住友海上社の創業80周年を記念して設立されました。</li> <li>・ 財団設立以来、「交通安全等」と「高齢者福祉」両分野への助成累計は、2,022件、23億40百万円となります。</li> <li>・ 設立当初は、損害保険に関係の深い交通遺児や防災活動で殉職した消防士の遺族等への援護活動が中心でしたが、1980年代からは、交通安全の普及啓発活動への助成に重点を置くようになりました。</li> <li>・ さらに、わが国の高齢化の進展に合わせ、1991年からは高齢者福祉分野へ助成対象を拡大しました。時代の変化にともなって事業領域を拡げ、現在は、「交通安全等」と「高齢者福祉」分野の研究助成、施設助成、著作・論文表彰などの多岐にわたる活動を行っています。</li> <li>・ 2007年度から海外における研究者を対象とした研究助成を開始しました。対象地域は、シンガポール、タイの2ヶ国で、2017年度は9件、約565万円<sup>(※)</sup>を助成しました。 (※) 助成金額は、暫定為替レートで計算しています。</li> <li>・ 新公益法人制度の下、2009年12月1日に「公益財団法人 三井住友海上福祉財団」に移行しました。</li> <li>・ 分野別では、近年、「高齢者福祉」が助成事業全体の約7割を占めています。</li> </ul>

以上